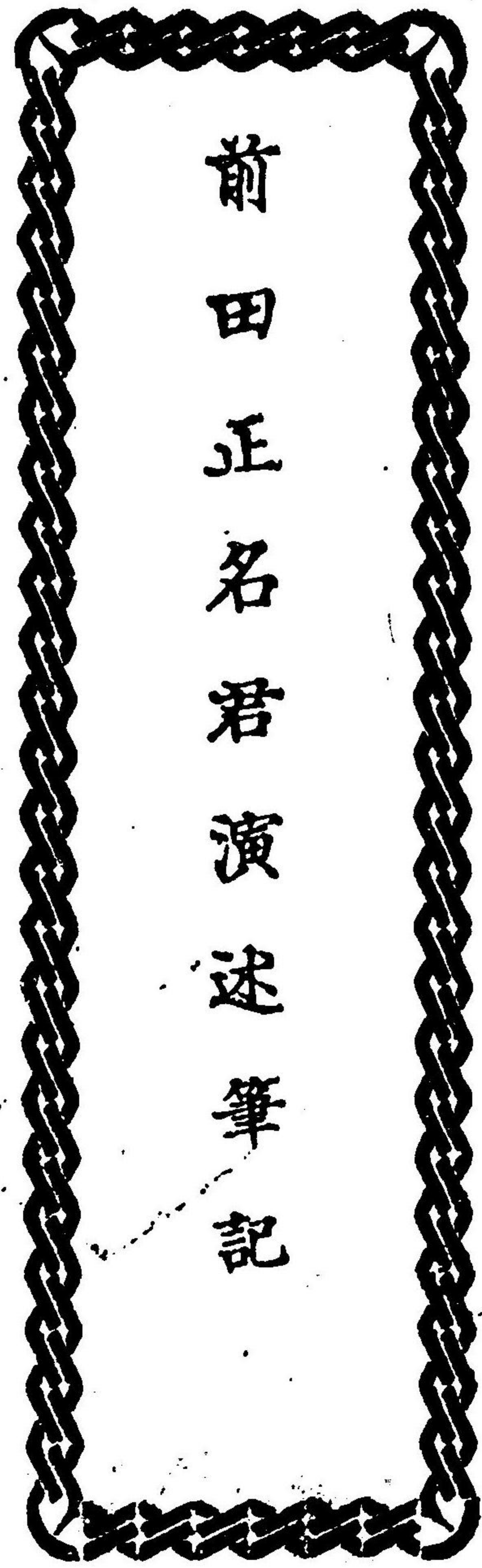


26-37

特17  
875



前田正名君演述筆記

042107-000-4

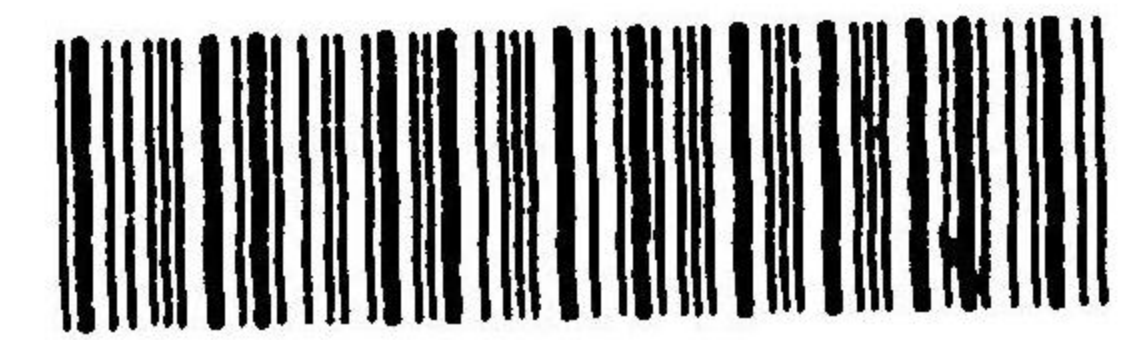
特17-875

前田正名君演述筆記

前田 正名/述

M26

BDI-1068



明治二十五年十一月九日 前田正名君來那

當七尾町光德寺ニ於テ演舌



今日ハ遠方ヨリ來會セラレ氣ノ毒ニ存スルナリ予ハ一昨年官職ヲ辭  
シ以來各地方ヲ漫遊シ今日ハ諸君ノ門ヲ叩キ農事多端ノ際ニモ拘ハ

時ヲ費スコハ予カ深ク諸君ニ謝スル處ナリ

借テ今日予進  
ントスル處ハ我邦産業ノ有様ハ如何外國産業ノ有様

如何ナル  
點ニアリ是レ決シテ正名一己ノ力ニアラスシテ多年

國庫金ヲ非常  
貴シ其恩ヲ報セヌ罪人ナルヲ以テ此報酬トシテ難病

ノタメ非常  
困難スルニモ拘ハラヌ御話シセントスルナルヲ以テ是

非  
非判斷ハ自己ニ於テ定メス分明ナラサル點ハ充分質問アラントテ



希望ス

正名ハ世間ニ流布スル吾カ一己ノ私見ヲ述フル政談者流トハ異ニシテ二十五年間刻苦シ本邦ノ有様ハ如何人並ニ生活ナシ居ルヤ否ヤニ注目シ百方考案ヲ運ラシ心痛シテ調査ナシタルモノ數百冊アルモ遺憾ナカラ此ノ席ニ携ヘス(此時机上ノ簿冊ヲ示ス)

此レハ石川縣ニ属スル調査ニシテ石川縣ヲ病人トスル中ハ恰モ其診察書トモ言フ可キ者ナリ

天災地變ハ豫メ期シ難シ故ニ豫防ス可カラスト雖モ農工商業將來ノ成績ハ其注意如何ニヨリ豫知スルヲ得ヘシ故ニ疾ク茲ニ着目シ産業ノ前途ヲシテ隆盛ナラシメサルヘカラス予カ調査セシ實蹟ニヨレハ今后此ノ儘擱クハ本邦ノ維持或ハ覺東ナキヤモ測リ知ルヘカラ

ス實ニ其危キヲ累卵ノ如クナリトス

此ニ當鹿島郡農事ノ有様ヲ陳センニ(書札ヲ掲ケ示ス)

農 四万八千七百三十人

耕地反別 八千九百十九町七反步

作付反別 壹万八百四十六町步

農産取入 七拾壹万九千七百六拾貳圓

農家負擔 拾壹万三千貳百五拾四圓

農家負債 三拾貳万四千八百七拾壹圓

農家貯蓄 九千〇貳拾圓

田 畑 壹反八畝九步

作付反別 貳反貳畝八步

収入金 拾四圓七拾七錢

負債 貳圓三拾貳錢

所得 拾貳圓四拾五錢

牛 二百三十八頭

馬 千六百七十四頭

諸稅息納者 二百七十五人

土地書入買入  
並普通貸借

○

此ノ如ク作付段別壹万八百四十六町步ニレテ此ノ段別ヲ以テ年々収  
獲スル金額ハ七拾壹万九千七百六拾貳圓又諸稅等ノ爲メ負擔金高ハ  
拾壹万三千貳百五拾四圓又此ノ農家ノ負債ハ三拾貳万四千八百七拾  
壹圓農家貯蓄ハ九千〇貳拾圓ノ少額ナリトス

上來掲出セシモノヲ農一人ニ分當スルコ耕池反別ハ壹反八畝九步此  
作付反別貳反貳畝八步農家一人ノ収入拾四圓七拾七錢内諸稅等負擔  
額貳圓三拾貳錢ヲ扣除セハ一ケ年僅ニ拾貳圓四拾五錢ノ所得トナル  
之レヲ一ケ月ニ見ル申ハ僅ニ壹圓ナリ此ノ壹圓ヲ以テ一人一ケ月ノ  
衣食住ノ費用ヲ支辨セラルヘカラスト昔ナラハ壹圓ノ収入ヲ以テ一人  
ノ生活ヲ遂ケ得ルモ知ルヘカラスト雖モ今ハ然ラス未開ノ時ニ在ツ  
テハ北海道ノ土人ノ如キ生活ヲナスモ社會ノ進化スルニ伴ヒ衣食住  
ノ需用ハ高尚ニ至リ到底壹圓ヲ以テ支辨スル能ハサルノミナラス世  
界列國ノ人民ト相並テ生活スルヲ望ム能ハサルナリ諸君試ニ思ヘ今  
横濱神戸ニ住ム外國人ハ犬ヲ飼ヘリ其犬ノ價二三百圓ヲ以テ求メ七  
八圓ノ食ヲ與ヘ市中連レ遊フモノアリ之レニ反シ我邦人ハ年中辛酸

サ嘗メ艱苦ニ堪ヘ僅ニ一ケ年拾貳圓四拾五錢月壹圓ノ收入ヲ得ルモ  
ノニ比セハ實ニ霄壤モ啻ナラサルナリ之レヲ以テ視ルモ諸君何ソ喚  
發奮勵セサルヘケンヤ

斯ル薄得ノ地ニ甘ンスル所以ノモノハ悲カナ數十年來ノ貧究ニ慣レ  
反テ安居ノ境遇ヲ得ルモノ、如ク毫モ意ニ介セスト雖モ諸外國人ノ  
一日モ堪フ可カラサル處ナリトス且ツ人ハ一月三十日中間斷ナク勞  
働スルヲ得ス然ルニ貴重ナル身体ヲ有テナカラ牛馬ニ代リ牛馬ノ如  
キ勞動スルハ外人ニ對シ實ニ耻ツヘキ次第ナラスヤ  
今鹿島郡ニ於ケル牛馬ノ數ヲ示サンニ

牛 二百三十八頭

馬 千六百七十四頭

二頭ノ牛ヲ以テ八万余ノ人ニ分當スレハ三百四十九人ニ對シ一頭馬  
ハ一頭ヲ以テ五十人ニ充ツ如此僅々タルハ世界ニ少キ所ナリ故ニ牛  
馬ノ働ヲナサ、ルヘカラサルニ至ルモ亦止ム能ハサルナリ之レ他ナ  
レ年中三百六十日ノ間働キ得ル處ノ收入僅ニ拾貳圓四拾五錢月壹圓  
ヲ得ル農家ニシテ如何ソ充分ニ牛馬ヲ飼育スルノ餘裕アラシヤ  
賭稅怠納者二百七十五人少敏ニアラス是亦取得ノ僅少ナル結果ナリ  
トフ予ハ過般富山縣ヲ巡遊セシカ大抵鹿島郡ト其比ヲ同セリ予カ少  
時富有ナル人ヲ指シテ「カ、」ト謂ヒシ方言アリシカ此ノ言舊加賀藩  
内ノ富裕ナルヲ形容シタル言ナルカ今ニシテ之ヲ視レハ然ラサル者  
ノ如シ全國ヲ通觀スルニ一年貳拾貳圓六拾七錢七厘(我國農家ノ  
取得最高額)ヲ利  
得スルアリ此ハ作村反別ノ倍シタル働ヲナスモノニシテ富山縣ノ如

キハ迄ニ及ハサルナリ斯ク貳拾貳圓餘ヲ利潤スル者ハ壹反ノ地ヲシテ  
ヲ三反ノ働ヲナサシムルナリ又京都ノ加茂ノ如キハ一反ノ地ヲシテ  
七反位井ノ働ヲナサシム併シ此ハ非常ノ働ト言ハサルヲ得ス且外國  
ニ於テ二十五年以來非常ノモノ出來タリ此ハ日本ト農事ヲ以テ非常  
ニ競争スル者ナリ下田ノ砲聲以來三十六年間晝夜ノ別ナク競争シテ  
我農商工及ヒ男女老若ノ別ナク一人ノ負傷者ナキニ至レリ予ハ往時  
數々出陣シ銃丸ノ内ニ奔走シタリト雖モ未タ輕傷タモ受ケサリシカ  
農商工ノ戦争(以下戦争ノ文字アルハ彼我農工商家ノ状態ヲ假令ス)上來述フル如ク一人ノ健全者ヲ  
遺サハルニ至ル此人一年ノ取得金四百貳拾壹圓六錢貳厘五毛ナリ是  
レ我々安座傍觀スヘキ時ニアラフ予ハ十八年歸朝以來之レカ救護策  
ヲ講スルニ躊躇セス汲々トシテ時々巡遊ヲ試ミ勸勵ニ怠ラヌ今回有

志者ノ門ヲ叩キ巡回スルニ至ルモ止ム能ハサルニ由ル回顧スレハ今  
ヨリ三十年前徳川幕府ノ時政ニ在リ米穀ト云ヒ卵ト云ヒ外國ノ供給  
ヲ仰カサルヲ得スト言ハ、人々如何ナル感覺ヲ惹起セシナラン往昔  
盛ニ攘夷ノ論ヲ唱道セシ時ニ在テハ諸外國ノ交通ヲ嚴禁セラレ若シ  
窃カニ犯ス者アラハ嚴科ヲ以テ死刑ニ處セラル其類例尠カラヌ今ニ  
シテ之レヲ思ヘハ其處置ノ何タルヤ憂慮措ク能ハサラシムルニ至ル  
ト雖モ之レ時勢ノ然ラシムル處ニシテ決シテ異ムニ足ラサルナリ然  
ルニ物換リ星移リ漸ク馴致シテ今ヤ世運相進ムニ連レ交易ノ必要ヲ  
感シ決然鎖國主義ヲ打破シ我ノ情誼親密トナリ交通頻繁トナル既  
ニ一昨年ノ如キハ農産物ニ於テ五千萬圓ノ輸入ヲ仰キタリ我邦ハ農  
事ヲ以テ立チ居ル國ニシテ恰モ大農家ト謂テ可ナリ此農家カ年々取

得スル處ヲ以テ或ハ衣食シ或ハ道路ヲ修繕シ其他土地公共等ノ費用ニ至ルマテ百般ノ費用悉ク之レカ支辨ニ供セサルヲ得サルナリ今往テ以テ来ヲ推スキハ予ハ憂慮ニ堪ヘサルナリ

予ハ學問智識アル人ニ向テ平易ニ談スルハ好マサル處ナリト雖モ事國家ノ經濟等ニ關スルニヨリ平易ニ談スヘシ

二十五年以前天下一統以來四千万人ハ全一ノ運動ヲ爲シ一目緩急アルキハ其關係全國ニ及ホレ外國カ弱ヲ令セ貧ヲ倒シタル者トハ其思想相異ナルナリ其所以ハ外人ハ異種混淆シ總テ本邦人ト異ナル處アルヲ以テナリ昔ハ國內ノ商工相互ニ敵視シ戰ヒシカ今ハ本邦四千萬人ノ敵トスルハ英、佛、清、米、朝鮮、ベルジツク、等ナリ

外國ニ於ケル僅カ十年間ニ取得金ノ増額セシハ左ノ如レ

英	四拾貳億貳千五百万圓
佛	拾九億千七百五拾万圓
獨	四拾七億千貳百五拾万圓
壤	拾四億三千万圓
伊	七億千五百万圓
蘭	三億三千五百万圓
白	貳億六千万圓
米	百壹億四千万圓

此如増額ヲ見ルニ至ル我邦ハ如何流通貨幣ハ壹億八千万圓ニシテ十年間ニ僅ニ五千万圓ノ増加ナリト古ノ大判小判ノ如キ貨幣ハ今如何ナル有様ナルカ英ノターヒ佛ノフランノ通貨ハ皆日本ノ大判小判

ノ變形シタルモノニレテ我カ商事ノ未タ開ケサルニ當リ皆物品ト交  
換セラレタルナリ日本ニ於テ綿ヲ作り外國ニ向テ安價ヲ以テ賣却セ  
シカ英國ハ其領地印度ヲ以テ綿ノ生産地トシ其他支那ニ於テ多量ノ  
綿ヲ産出シ日本ノ綿ト競争シテ從來日本ニ於テ販賣セシヨリ一層安  
價ニテ賣路ヲ廣ムルヲ以テ到底此強敵ニ敵スル能ハスシテ遂ニ綿ハ  
戦死シ我人ハ每一人年五拾錢ノ綿代ヲ外國人ニ拂ヒ居ル勘定ナリ日  
本人タル者一人モ瓶ヲ負ハサルハナシ(左ノ書札ヲ  
掲ケ示ス)

ハ外人ノ供給ヲ仰ガサルニ至リシ物

茶 米 石炭

樟腦 漆器 銅器 陶器 水産 雜貨

壹億八千万圓

木綿 砂糖 石炭油 縮緬吳那



— 器 械 類

— 羅 紗

— 船 舶

— 米

— 麥

— 麥 粉

— 雜品七十餘種

砂糖ハ如何ナル有様ナルカ拿崙翁第一世カ英吉利ト隙ヲ生スルニ當  
リ英國ハ砂糖ノ需給ヲ絶テタルニヨリ拿崙翁カ大根ヲ以テ砂糖ヲ製  
造セシ以來其結果日本産ノモノヲ倒シテ遂ニ年々八百万圓ノ輸入ヲ  
仰クニ至レリ

石炭油カ舶載シテヨリ本邦ノ油ハ倒レ茶種ヲ減殺ス縮緬吳郎ハ如何  
予カ宿泊スル宿屋ハ到ル所同品ノ座布團ヲ見タリ此レカ爲メ京都ニ  
於テハ西陣ニ從事セル二千五百戸ノ職人ヲシテ無職ニ至ラシメタリ  
器械品ハ如何是亦外國ノ需給ヲ仰キ其他雜品七十餘種ハ皆悉ク外國  
ノタメ壓倒セラレタリ抑モ進撃スヘキ以上ノ物産ヲ有テナカラ皆外  
國ニ壓セラレタリ國家ハ實ニ危急ナル場合ニ沈淪セリ  
茶ハ如何當初七百万圓程輸出シタリト雖モ其後幾年ヲ經過スルモ増  
額ヲ見ス故ニ茶ハ到底引合ハサルナリ  
米ハ如何ナルカ外國ニ到達スルマテニハ二割乃至三割ノ多額ノ費用  
ヲ要セサルヲ得サルニ由リ充分ナル利潤ヲ得ス

樟腦ハ外國ニ於テ無キ品ナルヲ以テ假令ハ高價ニ販賣セントスルモ

外國人ハ供給ヲ我ニ仰カサルヲ得サル品ナリト雖モ内國人カ互ニ競  
 争シテ非常ナル廉價ヲ以テ外人ノ需用ニ應スルノ~~要~~ナリ

漆器ハ外國ニ於テ「シヤパン」ト云フ邦人カ國分ト云フハ煙草ノ~~一~~ダ  
 ルヲ知ル如ク其產地ヲ以テ器名ニ應用スルハ漆器ハ日本特有ノ物産  
 ニシテ世界無比ノ物タレハナリ然ルニ今ノ有様ハ如何漆器ノ名産ハ  
 會津大坂等ナリ今日ハ又衰微シテ終ニ特有物産タルコト能ハサルハ  
 何故ニ斯ク衰フカ彼ノ獨逸國ハ天然ノ貧乏國ナリ土地瘠礮ニシテ氣  
 候ハ寒威甚シキニモ拘ハラズ數十年前日本ヨリ漆樹ヲ移植シ非常ノ  
 忍耐ヲ以テ從事スルニ依リ大ニ成長シ今ハ多ク漆汁ヲ取り器物ニ塗  
 リ我利歌山産ノ如キ類例ノ品ヲ製造シ日本品ノ名ヲ以テ販路ヲ全歐  
 州ニ擴張スルヲ以テ日本ノ漆器ハ大ニ聲價ヲ減シ終ニ日本品ヲ仰ク

ニ及ハサラシム支那ニ於テモ亦然リ其他陶器水産雜貨何レモ危急ノ  
運命ニ遭遇セリ諸君ハ如何スレハ此ノ衰頽ヲ挽回スルヲ得ルヤ斯ク  
與フヘカラサル利ヲモ舉ケテ外人ノ爲メニ吸取セラレ吾々國民ハ此  
ノ衰頽ヲ認知シナカラ閑然トシテ安眠ヲ貪ル時ニアラス早ク農工商  
事ノ發達ニツキ充分研究ヲ要スヘキ秋ナリ

顧ミテ我邦ノ商家ノ現狀ヲ觀ルニ一モ團體ヲナサスシテ所謂全志打  
ケノ姿ニテ各自製造人ヨリ區々點々ニ散在スル横濱問屋へ運ヒ此ニ  
於テ全港ニ居留スル或ル外國人へ賣却ス此外國人ハ搾リ切テ買ヒ求  
メ大ナル利潤ヲ得テ得意先へ賣却スルニヨリ其巨利ハ皆外人ノ占ム  
ル處トナル恰モ昔時薩人カ琉球ニ渡リ土人ヲ搾リテ土地ヲ買ヒ之ヲ  
他方ニ販賣シテ巨利ヲ得タルカ如クナリ且ツ外人ノ我商人ニ對スル

有様ハ實ニ言フニ忍ヒサルナリ問屋ノ主人タル者ハ數十人ノ使役人  
ヲ有シ傲然主人ヲ以テ居ルト雖モ外人ニ對シテハ恰モ土隸ノ如ク况  
ンヤ其使役人オヤ是レ賣方買方其位置ヲ異ニスルニヨルヘシト雖モ  
亦憤慨ニ堪ヘサルナリ且ツ取引上物事ニケナク喰ハサル、ヲ以テ其  
結果ハ粗製濫造トナリ價益廉ニシテ販路愈減シ日本品ヲ信用セス日  
本品ト見レハ荷中ヲ一覽セサル上ハ取引セサルノ有様ナリト雖モ外  
人間ノ取引ハ皆商標ヲ以テシ賣人ヨリ直接花主ヘ持テ運ヒ賣却スル  
カ故大ナル直接ノ利益ヲ得之レニ反シ我商人ハ連戦連敗食盡キテ路  
頭ノ鬼トナル豈ニ慨嘆ニ堪ユヘケシヤ

此度ハ有志諸君ニ向テ希望スルハ前年此ノ鹿島郡へ巡回セシ際談話  
セシ如ク毎日一人ニ付二厘六毛充テノ貯金ヲサハ全國中ニテ向フ五

ケ年ヲ經ハ惣額殆ント貳億萬圓ノ流通資本ヲ得ルヲ以テ庶幾クハ今  
后日々貳圓六毛充テノ貯金アリタキモノナリ

第二ハ此ノ能州ハ如何ナル方針ヲ以テ將來農工商ノ發達ヲ計ルヤニ  
注意シ振起ノ策ヲ講究スルト全時ニ商法會議員ノ勢力ヲ增大ナラシ  
ムルヲ希望ス夫レ商法會議員ハ商業將來ノ主動者ナレハナリ且ツ  
我國ハ前ニ陳ヘシ如ク人並ニ生活シ得ルヤ否衣食住ニ缺乏ヲ告ケサ  
ルカ貯蓄非常天災ノ國用如何兵備、堤防、河港道路、山林等ハ如何ト  
云フニ一ツトシテ未タ全キヲ得ス我國ヲシテ充分ナルモノニ至ラシ  
ムルハ港ヲ三百七十五港ヲモ設ケサレハ立派ナル獨立國ト謂フヲ  
得ス實ニ嘆スルニ外ナシ

尙終ニ臨ンテ一言セシニ日本ノ山林ハ如何ト云フニ生ヘ立テノ儘打

藥アアルカ故収利薄ク百町歩ニ僅カニ八圓ヲ得西洋ノ山林ハ如何ト云フニ決シテ生ヘ立テノ儘打藥ヲ置カス常ニ栽培等其方ヲ得ルカ爲メ百町歩ニ付五百四拾四圓餘ヲ得之ノ實ニ雲泥ノ差異ナラスヤ元來我邦ノ山林ハ自生スルモノニシテ外國ノ山林ハ播種栽培等種々人工ヲ施スカ故斯ク巨利ヲ獲ルハ偶然ニアラサルナリ又或ル外國人ハ砂糖、綿ヲ奴隸ニ作クラセ年々各國へ輸出シ巨万ノ利益ヲ得ルト云フ

此他詳細ナル事柄ヲ述ヘントスレハ甚タ多ク一朝一夕ニ述ヘ盡シ難シ要スルニ予カ談話ヲ試ムルハ畢竟實業家諸君ヲシテ奮勵覺悟スル處アラシメント欲スルニ外ナラサルナリ故ニ實業家諸君ニシテ此衰頽ヲ救護スル方策ヲ講セサルヘカラスト覺悟アルヲ得ハ予カ今回巡

遊ヲ試ミシ目的ヲ達シタルモノナリ

明治二十六年一月十七日印刷

全年一月十日出版

石川縣鹿島郡役所

印刷人 真木喜右衛門

石川縣鹿島郡七尾町  
字作事町三番地



